

山中の月（真山民）

我は 愛す 山中の 月

惘然と して 疎林に 掛るを

幽独の 人を 憐むが 為に

流光 衣襟に 散ず

我が 心 本 月の 如く

月も 亦 我が 心の 如し

心と 月と 両つながら 相 照し

清夜 長えに 相 尋ぬ

我愛山中月 惘然掛疎林
爲憐幽濁人 流光散衣襟
我心本如月 月亦如我心
心月兩相照 清夜長相尋

解説 山中を照らす月をよんだもの。

語釈 ※惘然 月の光り輝くさま。 ※疎林 木のまばらにはえている林。

※幽独人 はずかにひとりいる人。作者自身をさす。 ※流光 月の光。

※衣襟 着物のえり。 ※本 いつも。 ※長 ながく変わらないさま。

※相尋 共に尋ねる。

通釈 私は山中にかかっている月が、木のまばらな林を照らしているのを愛する。この隠士である私を憐れむかのように、月光は私のえりのあたりを照らし続けている。私の心はもとも月のように自然でなんの邪心もなく、月もまたわが心と同じで、共に照らしあつて、このすばらしい美しい夜をいつまでも尋ねるのである。